環境経営レポート

（対象期間：2023年１月～2023年12月）

［２０２３年度版］

発行日：令和６年１月２９日

三苫舗道株式会社

目　次

1. 組織の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 2

2. 実施体制　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 3

3. 環境経営方針　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 4

4. 環境経営目標　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 5

5. 環境経営目標に対する環境経営活動計画（取組内容）　・・ p 6

6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容結果　・・・・ p 8

7. -1　環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果と
　　そのグラフ（二酸化炭素排出量）　・・・・・・・・・ p 9
　-2　環境経営目標の達成状況及び環境経営計画の実施状況
　　及びその評価結果と、次回の取組内容　・・・・・・ p 11

8. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果
　環境関連法規などの違反，訴訟などの有無　・・・・・・ p 12

9. -1　代表者による全体評価と見直しの結果　・・・・・・ p 13
　-2　代表者による総括　・・・・・・ p 14

10. 環境コミュニケーション　・・・・・・・・・・・・・・ p 15

11. 事故及び緊急事態の想定結果と
　　その対応策(建設現場)　・・・・・・ p 15

組織の概要

1） 事業所名　　三苫舗道株式会社
代表者氏名　　代表取締役　川島　和子

2） 所在地　　≪本　社≫　　〒819-0387　福岡市西区富士見１丁目９番１１号
≪糸島営業所≫　〒819-1601　糸島市二丈深江１６７２番地１

3） 環境管理責任者　取締役　　重谷　秀一
担当者　事務　　重谷　舞子
連絡先　ＴＥＬ　　092-807-1219
ＦＡＸ　　092-807-1279

4） 事業の内容　　福岡県知事許可（特-3）第32907号
土木工事業、とび・土工工事業、舗装工事業
産業廃棄物収集運搬業許可：4000069680
※積替え保管なし、自社分運搬のみ

5） 事業の規模　　資本金：２,０００万円
総売上額：５３７百万円

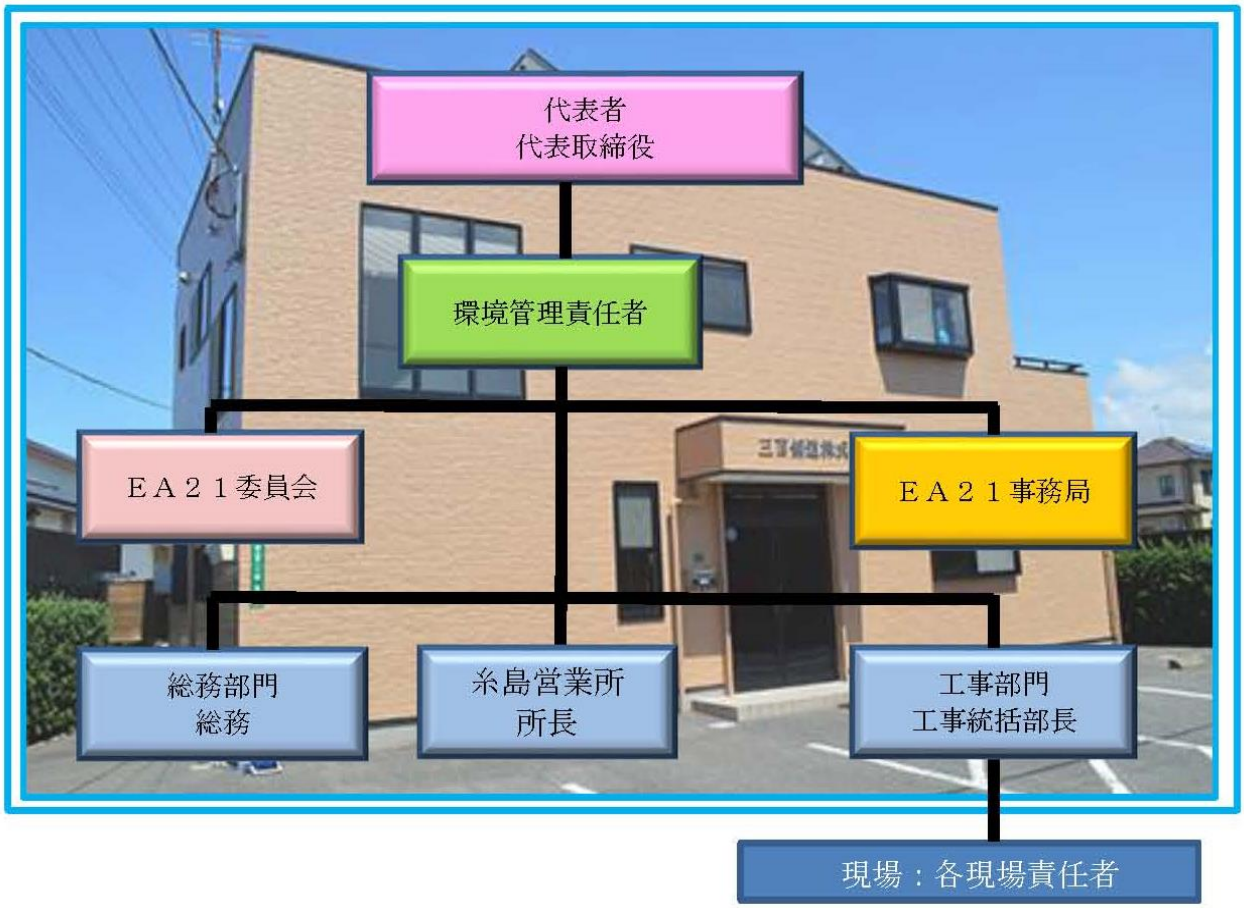
	単位	本社	糸島営業所
従業員数	人	14	2
延床面積	㎡	156.75	1318.89

6） 事業年度　　２０２３年6月～２０２４年5月

7） EA21対象期間　　２０２３年1月～２０２３年１２月

8） 認証・対象範囲
上記の全組織及び全活動
1） 登録事業者名　三苫舗道株式会社
2） 対象事業所　　本社、糸島営業所
3） 活動　　土木工事業、とび・土工工事業、舗装工事業
4） 対象範囲　　全社及び全事業活動

実施体制



役割分担表

所属	役割・責任・権限
代表者	・代表者として環境経営全般について責任と権限を持つ ・環境方針を作成及び見直し、従業員に周知する ・環境管理責任者、ＥＡ２１事務局員を任命する ・環境への取組を実施するための資源（人・もの・金）を準備する ・ＥＡ２１全体の取組状況に関し評価、見直しを実施する
環境管理責任者	・ＥＡ２１ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムの構築、実行、維持管理 ・毎年、環境目標、環境活動計画を作成する ・３か月に１回、環境目標の達成状況及び環境活動計画の実施状況を確認・評価 ・上記の結果を代表者に報告する
ＥＡ２１委員会	・半年に１回開催し、環境目標及び環境活動計画の実施状況を審議する
ＥＡ２１事務局	・環境管理責任者を補佐し、文書や記録類及び基礎データの作成・維持・集計・管理 ・社外からの環境情報の収集と伝達を行う
部門長	・環境方針、環境目標、環境活動計画を部門全員に周知する ・環境目標達成のため、責任を持って自部門の環境活動を推進する ・自部門で発生した問題点の是正処置、予防処置を実施する ・自部門に関連する法規制等を順守する ・自部門に関連する緊急事態への準備及び対応の訓練を実施する ・自部門の教育・訓練を実施する
全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚する ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する

環境経営方針

三苫舗道株式会社

《環境理念》

近年の地球温暖化等の環境問題が懸念される中、建設工事事業活動における環境への影響を理解し、企業の社会的責任として、自然環境の維持向上に全社員一丸となり、積極的に取り組みます。

《環境保全への行動指針》

1．事業活動に伴う環境への負荷を削減するために、次の事項に取り組みます。

（1）二酸化炭素排出量の削減のため、省エネルギー活動に取り組みます。

（2）廃棄物排出量の削減と分別を徹底し、産業廃棄物の再資源化リサイクル率の向上に取り組みます。

（3）建設副産物の再資源化率を向上させます。

（4）適正な利用により水使用量の削減に取り組みます。

（5）グリーン購入の推進に取り組みます。

（6）環境に配慮した工事の実施に取り組みます。

（7）地域貢献活動の推進に取り組みます。

2．関係する環境関連法規等を遵守致します。

3．全社員一丸となり、環境経営の継続的改善に積極的に取り組みます。

4．人手不足解消の為雇用条件や職場環境を見直し、働き方改革を図ります。

5．舗装工事のプロとして、全員経営をスローガンとして技術向上をし続けます。

6．全員が管理責任であるとの自覚を持ち、事故の未然防止に努めます。

7．環境経営方針を全社員へ周知し、環境への取組の徹底を図ります。

制定日　２０１４年　９　月　２５　日

改訂日　２０２４年　２　月　２６　日

三　苫　舗　道　株　式　会　社

代表取締役　　川島　和子

環境経営目標

（売上高１００万円当りの原単位）

売上高：２０１７年５２３百万円

			サイト区分	単位	基準年 2017年度 1月～12月	**4.5%削減** **2023年度** **1月～12月**	5.0%削減 2024年度 1月～12月	5.5%削減 2025年度 1月～12月	6.0%削減 2025年度 1月～12月
	売上高（単位：百万円）				**523**				
1	二酸化炭素排出量の削減		全体	kg-CO2	(171,459) 327.84	**(163,743)** **313.09**	(162,886) 311.45	(162,029) 309.81	(161,171) 308.17
	(1)	電気使用量削減 （原単位、上段は実績）	事務所	kWh 0.463	(14,128) 27.01	**(13,492)** **25.80**	(13,422) 25.66	(13,351) 25.53	(13,280) 25.39
			現場	kWh 0.463	(9,839) 18.81	**(9,396)** **17.97**	(9,347) 17.87	(9,298) 17.78	(9,249) 17.68
	(2)	ガソリン使用量削減 （　〃　）	事務所	ℓ 2.32	(8,740) 21.32	**(8,347)** **20.36**	(8,303) 20.25	(8,259) 20.15	(8,216) 20.04
			現場	ℓ 2.32	(2,409) 21.32	**(2,301)** **20.36**	(2,289) 20.25	(2,277) 20.15	(2,264) 20.04
	(3)	軽油使用量削減 （　〃　）	現場	ℓ 2.58	(49,678) 94.99	**(47,442)** **90.71**	(47,194) 90.24	(46,945) 89.76	(46,697) 89.29
	(4)	灯油使用量の把握 （　〃　）	現場	ℓ 2.49	(159) 0.30	**(152)** **0.30**	(151) 0.30	(150) 0.30	(149) 0.30
	(5)	LPG使用量の削減 （　〃　）	現場	kg 3.00	(1,000) 1.91	**(955)** **1.83**	(950) 1.82	(945) 1.81	(940) 1.80
2	廃棄物排出量の削減								
	(1)	一般廃棄物排出量の削減（実績値）	全社	kg	167.9	**160.3**	154.7	154.7	154.7
	(2)	産業廃棄物のリサイクルの推進（実績値）	現場	%	100	**100**	100	100	100
	(3)	産業廃棄物の把握（実績値）	現場	t	1,349.5	**把握する**	把握する	把握する	把握する
3	建設リサイクル率								
	(1)	建設リサイクルの把握	現場	建設現場から発生するアスファルト及びコンクリート廃材等をリサイクル施設へ持ち込みを行い、資源の循環へ寄与する。					
	(2)	産業廃棄物のリサイクルの推進（実績値）	現場	%	100	**100**	100	100	100
	(3)	産業廃棄物の把握（実績値）	現場	t	1,349.5	**把握する**	把握する	把握する	把握する
4	水使用量の削減								
	(1)	水使用量の削減（実績値）	事務所	㎥	43.0	**41.1**	40.9	40.9	40.9
	(2)	水使用量の削減（実績値）	現場	㎥	1,313	**1,254**	1,210	1,210	1,210
5	グリーン購入の推進		全社	配慮する	配慮する	**配慮する**	配慮する	配慮する	配慮する
6	環境に配慮した工事の実施		現場	配慮する	環境に配慮した建設機械の使用率100%を維持し、さらに使用方法にも工夫する。				
7	地域社会貢献活動		全社	可能な限り参加又は実施する	事務所及び現場周辺の清掃活動を実施し、地域の環境保全に貢献する。				
8	環境経営の継続的な改善の取組		全社	実施する	社員が「やりがい」を持ち、社長と同様のモチベーションをもって仕事ができるように取組む。				
9	働き方改革の推進		全社	実施する	自社の主な強みを強化し、弱点を補完し、重要な業務に集中できるよう従業員の能力を引き出す。				
10	事故未然防止への取組		全社	実施する	事故につながる車両不備を未然に防ぐため、万全な車両管理体制で、安全への取組を推進する。				

※二酸化炭素排出量の計算で使用した排出係数は九州電力　2017年度の調整後排出係数（0.463kg-CO_2／kWh）を使用しています。

※※化学物質使用量は、未使用のため未計上です。化学物質を使用する場合は、管理を徹底します。

＊1　事務所水使用量はほぼ横ばいの状態のため、過去の3年分のデータの平均値をとった

＊2　現場水使用量は2020年度のを使用（使用計上量を、洗車以外の使用量も計上することにした）

＊3　現場灯油使用量は2021年度のを使用（使用計上量を、現場の暖房用を新たに計上することにした）

環境経営目標に対する環境経営活動計画（取組内容）

１．二酸化炭素排出量の削減

取組目標		サイト区分	責任者	達成手段		実施スケジュール			
						１～３月	４～６月	７～９月	１０～１２月
1	電気使用量の削減	事務所	重谷	1	エアコン設定温度の実行（冬２５度、夏２６度）	→		→	→
				2	パソコン、コピー機等のOA機器を省電力設定にする	→	→	→	→
		現場	矢野	1	使用していない部屋の空調を停止する	→	→	→	→
				2	ロッカー室や倉庫、使用頻度が低いトイレなど、照明は普段は消灯し、使用時のみ点灯する	→	→	→	→
2	ガソリン使用量の削減	事務所現場	重谷	1	タイヤの空気圧を定期的に確認し、適正値を保つように努める	→	→	→	→
				2	エコドライブなど運転方法の配慮を励行する	→	→	→	→
3	軽油使用量の削減	現場	松尾	1	使用する建設機械等を効率的使用の観点から見直し、エネルギー消費量を抑える	→	→	→	→
				2	建設機械等のアイドリングストップを行う	→	→	→	→
4	灯油使用量の削減	現場	松尾	1	暖房器具等の燃料消費量を抑えるように火力を抑える。また、不必要な暖房は控える	→			→
5	ＬＰＧ使用量の削減	現場	松尾	1	不使用時はこまめにコックを閉める	→	→	→	→
				2	工事に適した使用にする	→	→	→	→

２．廃棄物排出量

取組目標		サイト区分	責任者	達成手段		実施スケジュール			
						１～３月	４～６月	７～９月	１０～１２月
1	一般廃棄物排出量の削減	事務所	重谷	1	使用済み用紙の裏紙を再利用する	→	→	→	→
				2	コピー機、プリンターのトナーカートリッジの回収ルートを確立し、リサイクルをする	→	→	→	→
2	産業廃棄物リサイクルの推進	現場	安岡	1	マニフェストを基に廃棄物を適正処理をする	→	→	→	→
				2	産業廃棄物の優良処理施設への選定の促進	→	→	→	→

３．建設リサイクルの推進

取組目標		サイト区分	責任者	達成手段		実施スケジュール			
						１～３月	４～６月	７～９月	１０～１２月
1	建設物副産物リサイクルの推進	現場	安岡	1	建設現場から発生するアスファルト及びコンクリート廃材の中間処理場の利用によるリサイクルをする（優良処理業者選定の配慮）	→	→	→	→

４．水使用量の削減

取組目標		サイト区分	責任者	達成手段		実施スケジュール			
						１～３月	４～６月	７～９月	１０～１２月
1	水使用量の削減	事務所	重谷	1	水道配管からの漏水を定期的に点検する	→	→	→	→
				2	手洗い等の日常利用時から節水する	→	→	→	→
2	水使用量の削減	現場	坂元	1	散水用の水に雨水・自然水等を利用する	→	→	→	→
				2	洗車の際は泥等を落としてから行う	→	→	→	→

5．グリーン購入の推進

取組目標		サイト区分	責任者	達成手段		実施スケジュール			
						1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
1	グリーン購入の推進	全社	重谷	1	再生材料から作られた製品を優先的に購入し使用する	→	→	→	→

6．環境に配慮した工事の実施

取組目標		サイト区分	責任者	達成手段		実施スケジュール			
						1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
1	環境に配慮した建設機械の使用	現場	前原	1	現場の作業規模に応じた機械を使用する	→	→	→	→
				2	建設機械の事前事後の点検整備を怠りなく行う	→	→	→	→
				1	運搬車両等の過積載を行わないよう徹底する	→	→	→	→
				2	建設機械の省燃費運転を行う	→	→	→	→

7．地域社会貢献活動の推進

取組目標		サイト区分	責任者	達成手段		実施スケジュール			
						1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
1	地域社会貢献活動の推進	全体	安岡	1	事務所及び建設現場等周辺の清掃活動に取組む	→	→	→	→
			川島	2	清掃活動を全社員で行う計画を立て、実行する	→	→	→	→

8．環境経営の継続的な改善の取り組み

取組目標		サイト区分	責任者	達成手段		実施スケジュール			
						1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
1	全社員が経営参加型企業へ	全体	川島	1	代表者のもと、全社員一丸となって利益を追求する	→	→	→	→
				2	取引先等の外部からの信頼を得る	→	→	→	→

9．働き方改革の推進

取組目標		サイト区分	責任者	達成手段		実施スケジュール			
						1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
1	人材確保の為働き方改革の実践	全体	川島	1	週休二日制を導入する	→	→	→	→
				2	専門学校等に新入社員のオファーを実施する	→	→	→	→
2	技術向上への取り組み			3	資格取得者の表彰制度を実施する	→	→	→	→
				4	技能研修・資格取得の奨励、助成。	→	→	→	→

10．事故未然防止への取り組み

取組目標		サイト区分	責任者	達成手段		実施スケジュール			
						1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
1	メンテナンス技術向上で自社メンテの実施	全社	重谷	1	自社の資格保有者のもと、重機のメンテナンスを可能な限り自社で対応し、かつ社員のメンテナンスの技術向上を計る。	→	→	→	→

環境経営計画に基づき実施した取組内容結果

			取組項目	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	実績 年度合計
二酸化炭素排出量削減								
	電力	事務所	エアコン設定温度の実行（冬25度、夏26度）	●	●	●	●	●
			パソコン、コピー機などのOA機器は、省電力設定にしている	●	●	●	●	●
		現場	使用していない部屋の空調を停止する	●	●	●	●	●
			ロッカー室や倉庫、使用頻度が低いトイレなど、照明は普段は消灯し、使用時のみ点灯する蛍光管の球切れ後はLED管に移行する	●	●	●	●	●
	ガソリン	事務所及び現場	タイヤの空気圧を定期的に確認し、適正値を保つように努めている	●	●	●	●	●
			エコドライブなど運転方法の配慮を励行している	●	●	●	●	●
	軽油	現場	使用する建設機械、機械を効率的使用の観点からから見直し、エネルギーの消費を抑えている	●	●	●	●	●
			建設機械などのアイドリングストップを行っている	●	●	●	●	●
	灯油	現場	暖房器具等の燃料消費量を抑えるように火力を抑えた	●	-	-	●	●
	LPG	現場	不使用時はこまめにコックを閉める	●	●	●	●	●
			工事に適した使用	●	●	●	●	●
廃棄物排出量削減								
	一般廃棄物	事務所	裏紙の利用	●	●	●	●	●
			コピー機、プリンターのトナーカートリッジの回収ルートを確立し、リサイクルを図っている	●	●	●	●	●
	産業廃棄物	現場	マニフェストの基本勉強の実施、廃棄物の適正処理の推進	●	●	●	●	●
			建設発生土の場内利用や、再利用を図る工夫をしている	●	●	●	●	●
建設リサイクル率								
	建設物副産物	現場	マニフェストを基に廃棄物の適正処理	●	●	●	●	●
			建設現場で発生するアスファルト及びコンクリート廃材等をリサイクル施設（優良業者選定）へ適切に搬出	●	●	●	●	●
水使用量削減								
	水	事務所	水道配管からの漏水を定期的に点検する	●	●	●	●	●
			手洗い時、洗い物においては、日常的に節水を励行している	●	●	●	●	●
	水	現場	散水車の水に地下水・雨水等を利用する	●	●	●	●	●
			洗車の際は泥等を落としてから行う	●	●	●	●	●
グリーン購入の推進								
	全社		事務用品の積極的グリーン購入・実施把握	●	●	●	●	●
			環境ラベルの周知徹底し、社員の意識改革現場資材のエコ製品の使用を考慮する	●	●	●	●	●
環境に配慮した工事の実施								
	現場		現場の作業規模に応じた機械の使用に努める	●	●	●	●	●
			建設機械の定期的自主点検の他、施工開始時にも点検を実施する	●	●	●	●	●
			運搬車両等の過積載を行われないよう徹底する	●	●	●	●	●
			建設機械の省燃費運転を行っている	●	●	●	●	●
地域社会貢献活動								
	全社		事務所及び建設現場等周辺の清掃活動に取組む	●	●	●	●	●
			海岸の清掃活動を全社員で行う計画を立て、実行する			●		
環境経営の継続的な改善の取組								
	川島		代表者のもと、全社員一丸となって利益を追求する	●	●	●	●	●
			取引先等の外部からの信頼を得る	●	●	●	●	●
働き方改革の推進								
	川島		週休二日制を導入する	●	●	●	●	●
			専門学校等に新入社員のオファーを実施する	●	●	●	●	●
			資格取得者の表彰制度を実施する	●	●	●	●	●
			技能研修を実施する	●	●	●	●	●
事故未然防止への取組								
	重谷		自社の資格保有者のもと、重機のメンテナンスを可能な限り自社で対応し、かつ社員のメンテナンスの技術の向上を計る。	●	●	●	●	●

※ 「●」は計画とおりに取組を行えた項目

6－1. 環境経営目標に対しての実績及び結果

《換算実績》売上高100万円当りの原単位
※（ ）内数字は、CO2排出量、エネルギーの使用量の実数

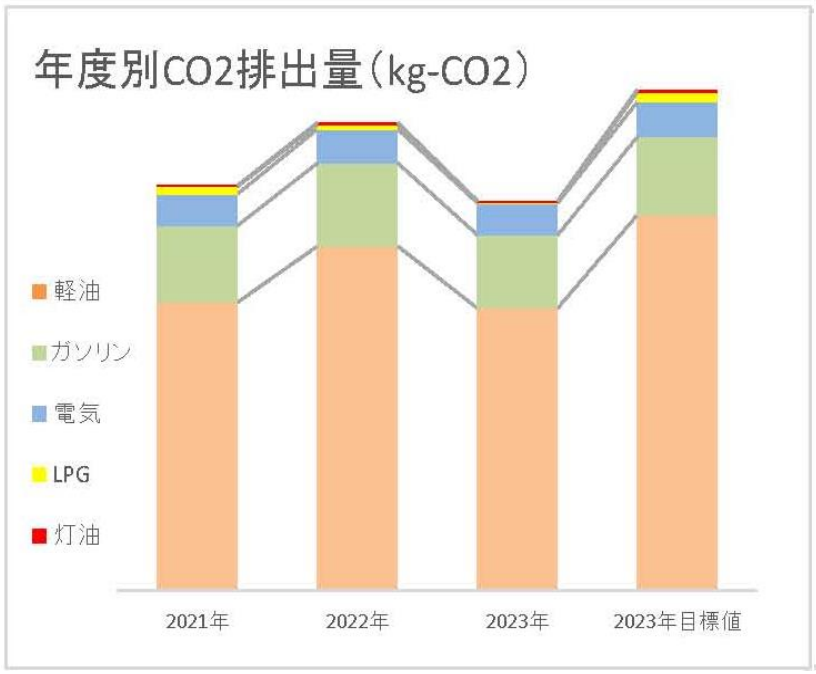
売上高：2017年523百万円
2023年537百万円

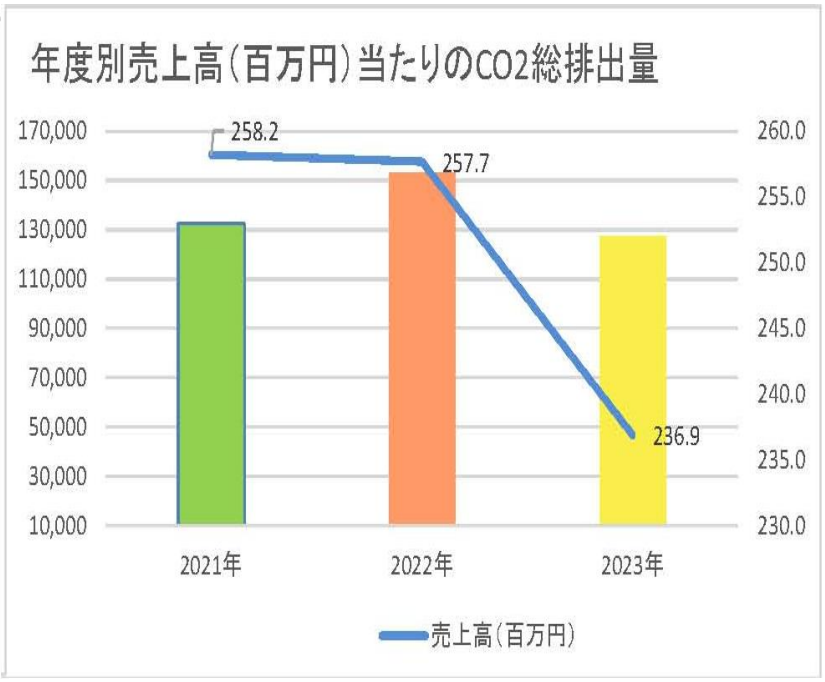
	サイト区分	単位 二酸化炭素排出係数	基準年 2017年度	2023年度1月～12月 目標	実績	達成率（%）	結果
1 二酸化炭素排出量の削減	全体	kg-CO_2	(171,459) 327.84	313.09	238.86	131.1%	○
(1) 電気使用量削減 （原単位、上段は実績）	事務所	kWh 0.463	(14,128) 27.01	25.80	25.19	102.4%	○
	現場	kWh 0.463	(9,839) 18.81	17.97	16.83	106.8%	○
(2) ガソリン使用量削減 （原単位、上段は実績）	事務所	ℓ 2.32	(8,740) 16.71	20.36	13.33	152.7%	○
	現場	ℓ 2.32	(2,409) 4.606	20.36	5.84	348.7%	○
(3) 軽油使用量削減 （原単位、上段は実績）	現場	ℓ 2.58	(49,678) 94.987	90.71	66.56	136.3%	○
(4) 灯油使用量の把握 （原単位、上段は実績）	現場	ℓ 2.49	(159) 0.304	0.30	0.41	73.3%	×
(5) LPG使用量の削減 （原単位、上段は実績）	現場	kg 3.00	(1,000.0) 1.912	1.83	0.73	250.7%	○
2 廃棄物排出量の削減							
(1) 一般廃棄物排出量の削減	全社	kg	168.0	160.3	60.0	267.2%	○
(2) 産業廃棄物のリサイクルの推進	現場	%	100	100	100	100%	○
(3) 産業廃棄物の把握	現場	t	1,349.5	把握する	把握した	把握した	○
3 建設リサイクル率							
(1) 建設リサイクルの推進	現場	建設現場から発生するアスファルト及びコンクリート廃材に関して、リサイクル施設へ搬出し、資源の循環へ寄与する。					
4 水使用量の削減							
(1) 水使用量の削減	事務所	㎥	43.0	41.1	81.0	50.7%	×
(2) 水使用量の削減	現場	㎥	1,313	1,254	1,239.8	101.1%	○
5 グリーン購入の推進	全社	配慮する	配慮した	配慮した	配慮した	配慮した	○
6 環境に配慮した工事の実施	現場	配慮する	配慮した	配慮した	配慮した	配慮した	○
7 地域社会貢献活動	全社	可能な限り参加又は実施する	○	○	△	可能な限り参加又は実施した	○
8 環境経営の継続的な改善の取組	全社	実施する	実施した	実施した	実施した	実施した	○
9 働き方改革の推進	代表者	実施する	実施した	実施した	実施した	実施した	○
10 事故未然防止への取組	全社	実施する	実施した	実施した	実施した	実施した	○

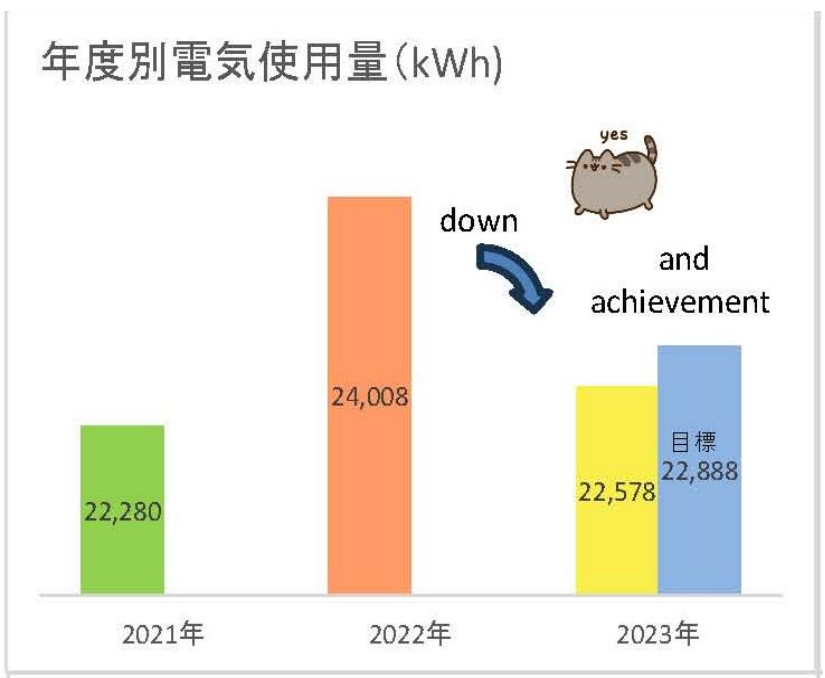
※二酸化炭素排出量の計算で使用した調整後排出係数は九州電力　2017年度の二酸化炭素排出係数（ 0.463kg-CO_2／kWh） を使用しています。
※※化学物質使用量は、未使用のため未計上です。化学物質を使用する場合は、管理を徹底します。
※※※　達成状況の評価　○：100%以上、△：100%未満90%以上、×：90%未満　で判定します。
＊1　事務所水使用量はほぼ横ばいの状態のため、過去の3年分のデータの平均値をとった
＊2　現場水使用量は2020年度のを使用（使用計上量を、洗車以外の使用量も計上することにした）
＊3　現場灯油使用量は2021年度のを使用（使用計上量を、現場の暖房用を新たに計上することにした）

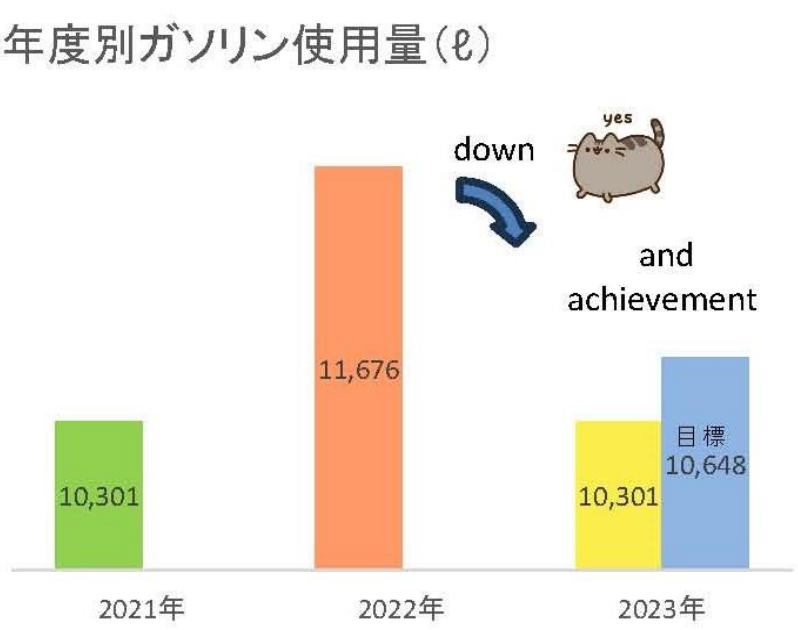
2　環境経営目標及び環境経営計画のグラフ（二酸化炭素排出量）

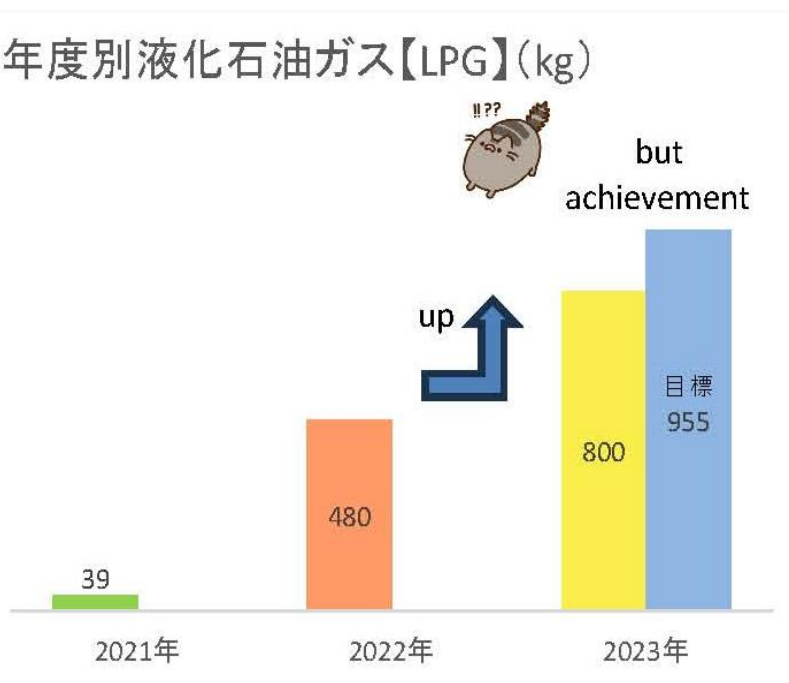
二酸化炭素排出量の年間実績に関するグラフ



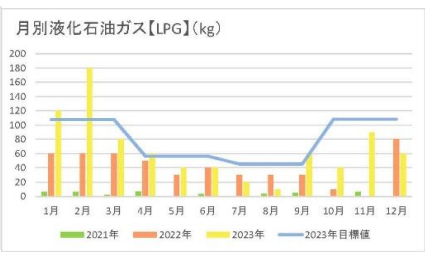








二酸化炭素排出量の月間実績に関するグラフ



環境経営目標の達成状況及び環境経営計画の実施状況及びその評価結果と、次回の取組内容

			1／4　期		2／4　期		3／4　期		4／4　期		年度全体		次回の取組内容
			目標達成状況	評価	目標達成状況	評価	目標達成状況	評価	目標達成状況	評価	目標達成状況	評価	
二酸化炭素排出量													
	全社	CO_2	◎	・工事繁忙期も、全社目標をなんとか達成できた。	◎	・全体的に達成したが、営業のため、ガソリン使用量が増加した。	◎	・今年の夏も猛暑だったが無理のない範囲でエアコン設定温度に取り組んだ。	◎	・工事繁忙期が始まり、全社目標をなんとか達成できた。	◎	例年とおり意識付けした行動ができていた。 本社全体として目標達成できた。 政府のコロナに対する緊急事態宣言とまん延防止等重点措置の解除はされたが、弊社としては社員の安全を考慮し、換気等のできるコロナ対策は続けていくこととしている。	一部に未達成項目に注視し、取組自体は次年度も継続。
	事務所	CO_2	◎	・エアコン設定温度の実行できた。 ・パソコン、コピー機等のOA機器を省電力設定できた。 ・自動車のタイヤ点検・エコドライブへの配慮ができた。	◎	・エアコン設定温度の実行できた。 ・パソコン、コピー機等のOA機器を省電力設定できた。 ・自動車のタイヤ点検・エコドライブへの配慮ができた。	◎	・エアコン設定温度の実行できた。 ・パソコン、コピー機等のOA機器を省電力設定できた。 ・自動車のタイヤ点検・エコドライブへの配慮ができた。	◎	・常時換気のためエアコン設定温度は保ったが電気使用量はかなり上がった。 ・パソコン、コピー機等のOA機器を省電力設定できた。 ・自動車のタイヤ点検・エコドライブへの配慮ができた。	◎		次年度も継続。
		電力	◎		×		◎		×		×		次年度も継続。
		ガソリン	◎		×		◎		◎		×		営業活動を縮減できないので、可能な範囲で使用量を削減する。
	現場	CO_2	◎	・営業所のロッカー室や倉庫、使用頻度が低いトイレなどの使用していないときの空調の停止や照明の消灯に努められた。 ・自動車のタイヤ点検・エコドライブへの配慮ができた。 ・使用する建設機械等を効率的使用によるエネルギー消費量を抑え、建設機械等のアイドリングストップを行えた。 ・暖房器具等の燃料消費量を抑えらなかった。 ・LPGの工事に適した使用に努め不使用時はこまめにコックを閉めれた。	×	・営業所のロッカー室や倉庫、使用頻度が低いトイレなどの使用していないときの空調の停止や照明の消灯に努められた。 ・自動車のタイヤ点検・エコドライブへの配慮ができた。 ・使用する建設機械等を効率的使用によるエネルギー消費量を抑え、建設機械等のアイドリングストップを行えた。 ・LPGの工事に適した使用に努め不使用時はこまめにコックを閉めれた。	◎	・営業所のロッカー室や倉庫、使用頻度が低いトイレなどの使用していないときの空調の停止や照明の消灯に努められた。 ・自動車のタイヤ点検・エコドライブへの配慮ができた。 ・使用する建設機械等を効率的使用によるエネルギー消費量を抑え、建設機械等のアイドリングストップを行えた。 ・LPGの工事に適した使用に努め不使用時はこまめにコックを閉めれた。	◎	・営業所のロッカー室や倉庫、使用頻度が低いトイレなどの使用していないときの空調の停止や照明の消灯に努められた。 ・自動車のタイヤ点検・エコドライブへの配慮ができた。 ・使用する建設機械等を効率的使用によるエネルギー消費量を抑え、建設機械等のアイドリングストップを行えた。 ・暖房器具等の燃料消費量を抑えられた。 ・LPGの工事に適した使用に努め不使用時はこまめにコックを閉めれた。	◎		次年度も継続。
		電力	×		◎		◎		◎		◎		次年度も継続。
		ガソリン	◎		×		×		◎		×		次年度も継続しデータを蓄積して、見直しの必要性を判断をする。
		軽油	◎		×		◎		◎		◎		次年度も継続。
		灯油	×		–		–		◎		×		次年度も継続しデータを蓄積して、見直しの必要性を判断をする。
		LPG	◎		◎		◎		◎		◎		次年度も継続。
廃棄物													
	全社	一般廃棄物	◎	・無駄な消耗品の購入使用やリサイクルできるものはリサイクル用いたりした。使用済み用紙の裏紙を再利用等。	◎	・無駄な消耗品の購入使用やリサイクルできるものはリサイクル用いたりした。使用済み用紙の裏紙を再利用等。	◎	・無駄な消耗品の購入使用やリサイクルできるものはリサイクル用いたりした。使用済み用紙の裏紙を再利用等。	◎	・無駄な消耗品の購入使用やリサイクルできるものはリサイクル用いたりした。使用済み用紙の裏紙を再利用等。	◎	・一般的な廃棄物は目標を達成した。 ・SDGs貢献のためペーパーレス化を促進した。	次年度も継続。
	現場	産業廃棄物のリサイクル促進	◎	・建設副産物リサイクルの官庁への報告義務書類の作成報告と推進の確認ができた。	◎	・建設副産物リサイクルの継続推進に社内教育を実施した。	◎	・建設副産物リサイクルの継続推進ができた	◎	・建設副産物リサイクルの継続推進ができた	◎	・建設副産物リサイクルの社内周知を通し、確実に推進・実施ができた	次年度も継続。
建設リサイクル率													
	現場	産業廃棄物のリサイクル促進	◎	・建設副産物リサイクルの継続推進ができた	◎	・建設副産物リサイクルの継続推進ができた	◎	・建設副産物リサイクルの継続推進ができた	◎	・建設副産物リサイクルの継続推進ができた	◎	・建設副産物リサイクルの継続推進ができた	次年度も継続。
水													
	事務所	上水	×	・例年とおりの節水に努めたが、結果が共わなかった	×	・例年とおりの節水に努めたが、結果が共わなかった	×	・例年とおりの節水に努めたが、結果が共わなかった	×	・例年とおりの節水に努めたが、結果が共わなかった	×	・通年を通しても目標未達成となった	通年を通して使用量が増加した。原因の究明をする。
	現場	地下水	◎	・工事の施工後の冷却散水、清掃目的で使用。 ・工事自体の特異性、主に工事車両の増加したが、目標値内に抑えられた。	◎	・工事の施工後の冷却散水、清掃目的で使用。 ・工事自体の特異性、主に工事車両の増加したが、目標値内に抑えられた。	◎	・工事の施工後の冷却散水、清掃目的で使用。 ・工事自体の特異性、主に工事車両の増加したが、目標値内に抑えられた。	◎	・工事の施工後の冷却散水、清掃目的で使用。 ・工事自体の特異性、主に工事車両の増加したが、目標値内に抑えられた。	◎	・工事の施工後の冷却散水、清掃目的で使用。 ・工事自体の特異性、主に工事車両の増加したが、目標値内に抑えられた。	次年度も継続。
グリーン購入													
	全社	購入	◎	・購入した。	◎	・購入した。	◎	・購入した。	◎	・購入した。	◎	・一年を通して購入した。	次年度も継続。
環境に配慮した工事の実施													
	現場	環境に配慮した建設機械の使用	◎	・これまで通り環境に配慮した機械の使用を継続、又エコ運転等にも意識する。	◎	・これまで通り環境に配慮した機械の使用を継続、又エコ運転等にも意識する。	◎	・これまで通り環境に配慮した機械の使用を継続、又エコ運転等にも意識する。	◎	・これまで通り環境に配慮した機械の使用を継続、又エコ運転等にも意識する。	◎	・これまで通り環境に配慮した機械の使用を継続、又エコ運転にも意識した。	次年度も継続。
地域社会貢献活動													
	全社	可能な限り参加又は実施する	◎	・営業所周辺の防災・清掃活動	◎	・営業所周辺の防災・清掃活動	◎	・営業所周辺の防災・清掃活動	◎	・営業所周辺の防災・清掃活動	◎	・繁忙期も、清掃活動は取組めた	次年度も継続。
環境経営の継続的な改善の取組													
	全社	実施する	◎	・意見聴取を定期的に行った。	◎	・意見聴取を定期的に行った。	◎	・意見聴取を定期的に行った。	◎	・意見聴取を定期的に行った。	◎	・意見聴取を定期的に行えた。	次年度も継続。
働き方改革の推進													
	代表者		◎	・建設業に必要な資格の取得等のバックアップを行った。	◎	・建設業に必要な資格の取得等のバックアップを行った。	◎	・建設業に必要な資格の取得等のバックアップを行った。	◎	・建設業に必要な資格の取得等のバックアップを行った。	◎	建設業に必要な資格の取得等のバックアップを行った。 新たに人材採用に関し、「応募者に広く門戸を開くこと」、「本人のもつ適性・能力以外のことを採用基準にしない」として、「公正な採用選考」を継続した。	次年度も継続。
事故未然防止への取組													
	全社	実施する	◎	該当なし	◎	該当なし	◎	計画していた海岸清掃活動を行った。	◎	該当なし ・緊急事態対応訓練を行った 該当なし	◎	・システム運用管理を行った。 ・緊急事態対応訓練を行った。 ・苦情等は無かった。 ・積極的に事務所周辺の清掃及び現場の清掃やゴミ拾いを行った。 コロナ対策等の解除により、社員全員で海岸清掃活動を計画し、実行した。	次年度も継続。

※　達成状況の評価　×＜100%≦◎、実行した場合も「◎」

環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果環境関連法規などの違反，訴訟などの有無

当社の事業活動、製品及びサービスに適用される環境関連法規等は次のとおりです。

適用される法規等	適用される事項（施設・物質・活動等）	遵守評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）	一般廃棄物及び産業廃棄物の管理・排出 マニフェストの交付・回収・保管の適正処理	遵守
建設リサイクル法	対象の工事の届出及びリサイクルの推進	遵守
騒音規制法	特定建設作業の届出 建設現場での機械使用時の騒音レベルの遵守	遵守
振動規制法	特定建設作業の届出 建設現場での機械使用時の振動レベルの遵守	遵守
オフロード法	特定特殊自動車の使用の制限	遵守
自動車リサイクル法	使用済み自動車の引き取り業者への引渡義務	遵守
家電リサイクル法	3ヶ月エアコンの管理点検 製品廃棄の際の適正な引渡、処理料金の支払い	遵守
フロン排出抑制法	フロン類の引渡義務、簡易点検義務	遵守
建設業法	建設業の働き方改革の促進	遵守

令和 5年12月29日に環境関連法規等の遵守状況を確認・評価した結果、違反はありませんでした。また、関係当局等からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

代表者による全体評価と見直しの結果

代表者	環境管理責任者
川島　和子	重谷　秀一

評価及び見直しに必要な情報（環境管理責任者）　記録日：2024　年　1　月　31　日

	環境目標	環境目標の達成状況	環境活動計画の実施状況	コメント
環境目標の達成状況・環境活動計画の実施状況	**二酸化炭素排出量**	◎	●	例年とおり意識付けした行動ができていた。 本社全体として目標達成できた。 政府のコロナに対する緊急事態宣言とまん延防止等重点措置の解除はされたが、弊社としては社員の安全を考慮し、換気等のできるコロナ対策は続けていくこととしている。
	廃棄物排出量	◎	●	一般廃棄物においてはSDGsを考慮し、通年を通して目標達成できた。 建設副産物リサイクルの継続推進した。
	水使用量	×	●	事務所は未達成、現場は達成となった。 事務所ではトイレ等で不具合はなかった。別の不具合があると思われる。原因究明中。 工事の施工後の冷却散水、清掃目的で使用。 工事自体の特異性、主に工事車両の増加したが、目標値内に抑えられた。
	化学物質使用量	―	―	現在化学物質は使用していない。今後、使用する状況になった場合、逐次在庫量確認と、無駄・ムラのない使用を心掛け今後も適正管理の推進を継続していく。
	グリーン購入	◎	●	昨年に続き文具購入時にグリーン購入を心がけた。次年度も引き続き、グリーン購入を進めていきたい。
	環境に配慮した工事の実施	◎	●	環境に配慮した建設機械の使用率100%を達成できた。それに加えて、エコ運転や重機のアイドリングストップ等にも意識した。現状で問題はない。
	地域社会貢献活動	◎	●	積極的に事務所周辺の清掃及び現場の清掃・ ゴミ拾いを行った。 コロナ対策等の解除により、社員全員で海岸清掃活動を計画し、実行した。
	環境経営の継続的な改善の取組	◎	●	純粋な環境経営の変化に付帯して発生するリスクや機会に大して適切に対処できるように、企業の正当な支出以外を排除するため「不当要求防止責任者講習」を受けた。
	働き方改革の推進	◎	●	建設業に必要な資格の取得等のバックアップを行った。 新たに人材採用に関し、「応募者に広く門戸を開くこと」、「本人のもつ適性・能力以外のことを採用基準にしない」として、「公正な採用選考」を継続した。
	事故未然防止への取組(外部からの苦情等の受付結果)	◎	●	・システム運用管理を行った。 ・緊急事態対応訓練を行った。 ・苦情等は無かった。

※　環境目標の達成状況の評価　：　×＜100%≦◎、実行した場合も「◎」
※　環境活動計画の実施状況　：　●（環境経営活動を計画とおり取組んだ）、ー（対象外）

記録その2：評価及び変更の必要性と指示（代表者）　記録日：2024　年　1　月　31　日

見直しの必要性の有無・見直し事項
（環境経営方針）
見直しの必要性　□ 有　■ 無
（環境目標・環境活動計画）
見直しの必要性　□ 有　■ 無
（その他）
見直しの必要性　□ 有　■ 無
・なし

代表者による全体評価と見直しの結果

代表者による総括

２０２３年度は環境経営計画の取組を例年どおり実施できました。

環境経営目標値に対して一部未達もありますが、二酸化炭素排出量の削減目標は環境目標を達成できました。

しかし、自動車用燃料に関しては燃費が若干改善はしましたが思うように削減効果が伸びておりません。

燃料高騰の昨今、我が社もコスト削減は重要課題でもあるため、さらなる燃費向上に努めます。

本業の現場（工事業）に着目すると、我が社において環境負荷の大半が燃料使用量（軽油）となっていますが、工事の現場状況により燃料使用量はLPGと共に大きく左右されてしまいます。

そのため、これまでどおり環境に配慮した機械等の使用を継続し、「荒い運転の改善」「アイドリング時間の短縮」等によるエコ運転を意識し、「タイヤの空気圧の定期的チェック」や「交換やメンテナンス等」の整備などもきめ細やかに行っていきます。

また、コロナ緊急事態宣言下で中止していた「地域の皆さまと海岸清掃」を再開することもできました。

コロナが5類感染症に移行したとはいえ、我が社としては社員の安全を考慮し、換気等のコロナ対策は続けてまいります。

これからも全社員一丸となり環境経営活動に励んでいくのは勿論のこと、省エネルギー・省資源化の意識も高め、積極的に環境活動を推進してまいります。

代表取締役　　川島　和子

環境コミュニケーション

今回は地域のみなさんや他団体と一緒に海岸と海岸周辺を清掃を行いました。
場所：福岡県糸島市深江海岸清掃

事故及び緊急事態の想定結果とその対応策(建設現場)

日　　時
　5 年 11 月 6 日(月)　9 時　～ 12 時
名　　称
　志摩津和崎道路舗装工事
場　　所
　糸島市
想定した緊急事態
　工事車両の事故防止について